



## 市内中学生の海外短期留学支援

# 世界で活躍する子どもたちの未来をつくる

市においては、これまでも市内中学生を対象とした海外短期留学を実施してきましたが、一部自己負担があるために留学をあきらめるケースがありました。そこで、本事業を普天間未来基金の用途にある「基地跡地の未来を担う人材育成に係る事業」として位置付け、ふるさと納税による寄附を募ることとしました。寄附による支援を通じて自己負担ゼロが実現されることにより、現に基地からの騒音等に悩まされている市内全ての中学生に経済的負担がなく、平等に海外留学のチャンスを与えることができます。本事業は寄附者が寄附をしやすい仕組みとするため、より具体的な事業としてプロジェクト化する「ガバメントクラウドファンディング」という手法により寄附を募っています。

市内中学生の海外短期留学支援  
に対する皆さまのご支援を  
よろしくお願いいたします。



### 「普天間飛行場跡地利用推進」 人材育成プロジェクト

〈寄附の方法〉

- ・インターネット(パソコン、携帯)からの申込み。  
URL : <https://www.furusato-tax.jp/gcf/434>  
右記のバーコードからも入れます。
- ・市役所窓口にて申込みも可能。



〈支払方法〉

- ・クレジットカード ・郵便振替
- ・金融機関での口座振込
- ・県内金融機関限定で納付書での納付

ガバメントクラウドファンディング実施期間：  
平成30年10月15日～平成31年1月15日

## 今年度の留学のようす

今年度は7月22日より、夏休み期間を利用して、市内の中学生を米国のワシントンDCとシアトルに約4週間派遣する事ができました。ワシントンDCでは、日本国大使館や米務省、ホワイトハウスなどを訪問し、杉山在米日本国大使やチャン国務次官代理代行と面談するなど通常の留学にはない貴重な経験を行うことができました。また、面談等を通じて生徒たちは、外交や日米関係について学ぶとともに、大使らへ積極的に仕事に関する質問を行い、また、自分の将来の夢を語りました。

面談の中で、杉山大使、チャン国務次官代理代行共に、「英語を勉強する事は大事。英語を話せると世界が広がる」という事をおっしゃっていました。実際に世界で活躍している方の話を聞くことが出来て、生徒たちの良い刺激となったと思います。シアトルでは、現地の学生との交流などを通して、現地の文化理解が深まり、留学前と比べて、生徒たちの英語力の向上も見られました。帰国後の報告会では、生徒たち自ら現地での体験と感想を英語で発表するなどの成長も見られました。

### 留学の日程

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| 7月22日           | 出発        |
| 7月23日～<br>7月26日 | ワシントンDC滞在 |
| 7月26日～<br>8月16日 | シアトル滞在    |
| 8月17日           | 帰国        |



▲杉山在米日本大使との対談

宜野湾市では、一日も早い  
普天間飛行場の返還を実現するとともに、  
普天間未来基金を通じて、  
将来の宜野湾市の発展につながる  
基地跡地利用の推進に向けて  
皆さまのお力添えを募っています。

# 普天間未来基金

普天間未来基金は、米軍基地の返還後の跡地利用に伴う将来の財政需要に備えるとともに、大きな可能性を秘めた基地跡地というフィールドにおいて未来を担う人材の育成に活用すること等を目的として創設された基金です。



## 子どもたちはまちの未来を担う宝もの

### Message 市長からのメッセージ

**宜**野湾市の中心に位置する普天間飛行場は、その危険性ゆえに日米両政府において返還合意がなされましたが、合意後20年以上経った今なお返還は実現されておらず、市民は航空機事故の危険性や騒音等の被害を強いられています。

一方で普天間飛行場は、東アジアとの中心に位置しているという地理的特性と面積約476ヘクタール(東京ドーム約100個分)という大規模性により、その跡地利用は沖縄振興の発展はもとより日本経済の起爆剤になるものと期待されています。

また、海外からの観光客数が300万人に達するなど、沖縄が今後ますます国際化するなかで、人材育成は非常に大切なことだと考えております。宜野湾市の場合は返還が実現していない普天間飛行場が、一番の課題ですが、返還後においても跡地利用に必要な財源を確保すること、そして大きな可能性を秘めた基地跡地というフィールドで活躍する人材を育成することが必要となります。そのため、宜野湾市では「普天間未来基金」(平成29年7月)を創設し、寄附を募っています。今年度より同基金の寄附を活用し、市内中学生を米国へ派遣しております。国際的な視野を持った人材を育成する本事業に対する皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。



市長 松川正則